

AMCoR

Asahikawa Medical College Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

医学図書館 (2007.04) 54巻2号:108.

原点に立ち返って

小川 聡

『原点に立ち返って』

旭川医科大学図書館 小川 聡

昨年1月に旭川医科大学図書館に異動となり、7年ぶりの医学図書館勤務となりました。この図書館は、私の図書館員としてのスタート地点であり、多くの感慨もあり、心躍らせて早速「医学図書館」を読みました。生来の不勉強もありしばらく読むことがなかったのです。医学図書館からしばらく離れていたため不安もありましたが、逆にどのように医学図書館が変貌し、進化しているかが楽しみでもありました。あらためて最新の数冊に目を通して、目新しく印象的だったのは、①NPO 法人への移行、②NPO 日本医学図書館協会加盟方法の拡大(個人加盟可)、③ヘルスサイエンス情報専門員認定制度、④豊富な教育・研究支援体制の堅持、⑤国際的交流活動の継続、⑥国立ライフサイエンス情報センター構想の継続的推進、などでした。私が以前から「医学図書館」に持っていた、医学図書館発展のため、図書館利用者や関連機関への協力体制、図書館員のレベルアップなどの使命や目的が何ら変わらないことを確認でき、少し安心いたしました。「医学図書館」は、以前と同様に医学図書館員として必要な知識・情報・研究成果などを満載しており、医学図書館員のための宝庫です。

新人の頃、私は、医学図書館や業務に対する明確な目標や活動指針を最初から持てませんでした。しかし先輩図書館員の教えと「医学図書館」を中心とした研鑽が、医学図書館で働く意義や活動指針を明確にしてくれたと思います。その時出会った「専門職への道：医学図書館入門者への学習ガイド」¹⁾という記事が、求めていた指針を与えてくれ、執筆から30年経った今でも先輩の教えとともに私の原点と言えるものです。この記事は、医学図書館のプロフェッショナルになるための研鑽方法や、基礎資料について明瞭に述べています。特に、医学図書館員になったら最初に熟読すべき図書として「**Handbook of Medical Library Practice**」²⁾を勧めています。余りにも強烈な内容でしたが、すぐに共感し、早速この図書を読み始めました(当時最新は4th ed.)。しかし、やはりここでも不勉強がたり、残念ながら今になっても読破できずにいます。

一方、「医学図書館」最新号(54巻1号)に「専門職への道：Handbookを切り開いた世界」³⁾が掲載されました。奇しくも前出記事と同一タイトルであり、医学図書館員の専門性と「**Handbook of Medical Library Practice**」の重要性を説く点に共通性があり、興味深く読みました。最新かつ的確な情報の提供が医学図書館の宿命と言えますが、この実現のためには先達の精神を含めた歴史に目を向ける観点や、地道な基礎研究などが必要であることを、この2つの記事を通してあらためて痛感させられました。

現在、大学を含めた多くの教育・研究・医療機関がそれぞれの目標に向かって日々努力していますが、とりわけ図書館の役割が、ますます大きくなっていると認識しなければなりません。そういった状況では、医学図書館員の養成や育成がなお一層必要であり、その一翼を担う「医学図書館」には大いに期待したいと思います。

最後に、今回執筆の機会を与えていただいたことで、図書館員としてのスタ

一ト地点に立ち帰り、医学図書館やこれを取り巻く多くのことを考える好機となりました。ここに感謝の意を表します。

参考文献

- 1) 裏田和夫. 専門職への道：医学図書館入門者への学習ガイド. 医学図書館 1977;24(1,2) : 26-31.
- 2) Daring, L, editor. Handbook of Medical Library Practice. Vol. 1-3. 4th ed. Chicago : Medical Library Association ; 1982-8
- 3) 山口直比古. 専門職への道：Handbook の切り開いた世界. 医学図書館 2007;54(1) : 20-6.